

## 平成21年12月期 第3四半期決算短信

平成21年10月30日

上場取引所 東 福

上場会社名 ロイヤルホールディングス株式会社

コード番号 8179 URL <http://www.royal-holdings.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 今井 明夫

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員財務企画部長 (氏名) 藤岡 聡

TEL 03-5707-8873

四半期報告書提出予定日 平成21年11月13日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成21年12月期第3四半期の連結業績(平成21年1月1日～平成21年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年12月期第3四半期	84,798	—	1,693	—	1,846	—	773	—
20年12月期第3四半期	90,222	△3.1	1,299	△66.7	1,439	△65.7	△200	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年12月期第3四半期	20.48	—
20年12月期第3四半期	△5.28	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年12月期第3四半期	72,821	44,209	59.4	1,145.54
20年12月期	77,721	43,483	54.6	1,123.62

(参考) 自己資本 21年12月期第3四半期 43,272百万円 20年12月期 42,445百万円

## 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年12月期	—	0.00	—	10.00	10.00
21年12月期	—	0.00	—	—	—
21年12月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成21年12月期の連結業績予想(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	112,000	△6.7	1,650	53.2	1,800	51.1	200	—	5.29

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注) 詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注) 詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年12月期第3四半期 40,804,189株 20年12月期 40,804,189株

② 期末自己株式数 21年12月期第3四半期 3,029,275株 20年12月期 3,028,330株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年12月期第3四半期 37,775,341株 20年12月期第3四半期 37,905,985株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

2. 本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、4ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

3. 本資料のサマリー情報、【定性的情報・財務諸表等】1. 連結経営成績に関する定性的情報及び 5. 四半期連結財務諸表(5)セグメント情報、「参考資料」(3)セグメント情報に記載している売上高には、その他の営業収入を含めております。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、景気対策の効果などにより一部持ち直しの動きが見られるものの、国内の雇用不安や所得減少懸念は継続し、個人消費が引き続き低迷するなど、厳しい状況で推移いたしました。

当飲食業界におきましては、節約志向の高まりから消費者の外出頻度が低下するとともに、低価格化を推し進める企業が相次ぐなど、企業間での競争は激しさを増しており、当業界を取り巻く経営環境は一層厳しさを増しております。

このような環境の下、当社グループでは、前年度末に策定した新中期経営計画に基づき、「お客様に選ばれ  
る“食”&“ホスピタリティ”の提供」「グループ総合力の発揮」「グループ資源の最適配分」の基本方針の下、本年度におきましては「選択と集中」をキーワードに各種経営施策を進めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は84,798百万円（前年同期比△6.0%）にとどまりましたが、損益面におきましては、全社的な経費削減を進めた結果、営業利益は1,693百万円（前年同期比+30.4%）、経常利益は1,846百万円（前年同期比+28.2%）となりました。また、特別損益として、閉鎖を予定していた店舗の一部について、賃貸借契約条件の変更等により店舗営業の継続を決定したこと等に伴う店舗閉鎖損失引当金の取崩し879百万円などを特別利益に計上した一方、投資有価証券について時価の下落による評価損459百万円などを特別損失に計上いたしました。これらの結果、法人税等1,252百万円などを控除し、773百万円の四半期純利益（前年同期純損失200百万円）を計上いたしました。

事業の種類別セグメント概況については、次のとおりであります。

#### （外食事業）

当社グループの基幹である当事業におきましては、ファミリーレストラン「ロイヤルホスト」を中心に、空港ターミナルビル・高速道路サービスエリア・大型商業施設・オフィスビル・百貨店・ゴルフ場等において、それぞれの顧客ニーズや来店動機に対応した多種多様な飲食業態を展開しております。

主力の「ロイヤルホスト」では、既存店の来客数の増加を目的として、ソフトとハードの両面から新たな取り組みを進めております。ソフト面におきましては、“88サラダ”や“88スイートポテト”といったリーズナブルな価格帯の商品や地域対応メニューを導入するなど、個人消費動向に合わせた営業施策を試みました。また、秋の新メニューとして、鹿児島産の黒毛和牛と黒豚を使用した“黒×黒ハンバーグ”を開発し、定番であるハンバーグメニューの充実を図りました。ハード面におきましては、新中期経営計画に基づき、お客様の満足度を高めるべく、店舗内外装の刷新に着手し、当第3四半期連結累計期間において10店舗を改装いたしました。

しかしながら、景気悪化による消費者の外出を控える傾向は依然として強く、高速道路サービスエリア内などの一部店舗を除き各種業態で来客数が減少したため、売上高は69,113百万円（前年同期比△7.4%）となりました。損益面におきましては、適正なコスト管理や固定費の削減などの経費削減に努めたほか、不採算店舗の整理を推し進めたことにより、営業利益は1,422百万円（前年同期比+154.1%）となりました。

#### （食品事業）

食品事業におきましては、新規顧客の開拓など販路の拡大に努めてまいりましたが、景気悪化の影響により製造・出荷が伸び悩み、売上高は2,345百万円（前年同期比△6.7%）となりましたが、製造部門全体の生産性向上に注力しました結果、営業利益は214百万円（前年同期比+33.2%）となりました。

#### （機内食事業）

機内食事業におきましては、M&Aによる福岡空港における事業基盤の拡大もありましたが、新型インフルエンザの世界的な流行等により、搭乗客数が減少したことに伴い、当社グループが機内食を搭載する路線が相次いで廃止・減便となるなどの影響を受け、売上高は4,260百万円（前年同期比△13.6%）、営業利益は499百万円（前年同期比△36.9%）となりました。

#### （ホテル事業）

ホテル事業におきましては、当第3四半期連結累計期間において「リッチモンドホテル」を秋田、成田、鹿児島に開業し、前期に開業したホテルとともに増収に寄与し、売上高は9,079百万円（前年同期比+11.4%）と伸張いたしました。しかしながら、損益面におきましては、景気悪化の影響によりビジネス需要が減退し、稼働率と客室単価が低下したこと、及び新規開業費用や販売促進費用等の負担も加わり、営業利益は297百万円（前年同期比△44.0%）となりました。

（注）前年同期比増減率及び前年同期の金額は、参考として記載しております。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

### (1) 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ4,899百万円減少し72,821百万円となりました。内訳は、流動資産が725百万円減少し、固定資産が4,174百万円減少しております。流動資産の減少は、季節的要因による受取手形及び売掛金の減少862百万円、未収入金の減少などによるその他流動資産の減少1,780百万円等があった一方、現金及び預金が2,093百万円増加したことなどによるものであります。また、固定資産の減少は、減価償却等による有形固定資産の減少1,861百万円、店舗閉鎖等に伴う差入保証金の減少1,542百万円などによるものであります。負債は、前連結会計年度末に比べ5,625百万円減少し28,612百万円となりました。これは、預り金の減少などによるその他流動負債の減少2,387百万円、短期借入金の減少960百万円、店舗閉鎖の完了及び営業継続への方針転換等に伴う店舗閉鎖損失引当金の減少などによる引当金（流動）の減少810百万円、長期借入金の減少681百万円があったことなどによるものであります。純資産は、四半期純利益773百万円の計上などによる利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ726百万円増加し44,209百万円となりました。これらの結果、1株当たり純資産額は、前連結会計年度末に比べ21円92銭増加し1,145円54銭となり、また、自己資本比率は、前連結会計年度末比4.8ポイント上昇し59.4%となりました。

### (2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、連結除外に伴う増減額を除き、前連結会計年度末に比べ2,103百万円増加し7,857百万円となりました。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、4,009百万円の収入となりました。法人税等の還付・支払前のキャッシュ・フローは5,135百万円の収入であり、法人税等の還付・支払によるキャッシュ・フローは1,126百万円の支出となっております。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、55百万円の支出となりました。これは、差入保証金の回収（純額）1,825百万円があった一方、設備投資による支出1,477百万円及び店舗閉鎖等に伴う費用の支出515百万円があったことなどによるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、1,850百万円の支出となりました。これは、短期借入金の純増減（支出）960百万円、長期借入金の純増減（支出）490百万円、配当金の支払い377百万円などによるものであります。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

「サマリー情報」に記載した平成21年12月期の連結業績予想は、平成21年2月13日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。なお、当該業績予想は、当社グループが現時点までに入手可能な情報から判断して、合理的であるとした一定の条件に基づいたものです。実際の業績は、「天候」「景気動向」等の様々な要因により異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 簡便な会計処理

(固定資産の減価償却費の算定方法)

定率法を採用している固定資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法)

法人税等の納付額の算定に関しては加味する加減算項目及び税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。また、繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

② 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 四半期財務諸表に関する会計基準の適用

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

② 重要な資産の評価基準及び評価方法の変更

(たな卸資産の評価基準の変更)

第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、評価基準について原価法から原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）に変更しております。

この変更による当第3四半期連結累計期間の損益への影響は軽微であります。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,857	5,763
受取手形及び売掛金	3,112	3,975
たな卸資産	1,619	1,798
その他	3,549	5,329
貸倒引当金	△3	△5
流動資産合計	16,135	16,860
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	11,418	12,514
土地	12,509	12,582
その他(純額)	3,712	4,405
有形固定資産合計	27,640	29,502
無形固定資産		
のれん	615	813
その他	520	597
無形固定資産合計	1,136	1,410
投資その他の資産		
投資有価証券	5,771	5,570
差入保証金	20,778	22,321
その他	2,000	2,319
貸倒引当金	△640	△263
投資その他の資産合計	27,909	29,947
固定資産合計	56,686	60,860
資産合計	72,821	77,721

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,257	3,722
短期借入金	3,840	4,800
1年内返済予定の長期借入金	3,346	3,155
未払法人税等	413	839
引当金	995	1,806
その他	5,464	7,851
流動負債合計	17,317	22,175
固定負債		
長期借入金	9,763	10,445
引当金	255	267
その他	1,276	1,349
固定負債合計	11,294	12,062
負債合計	28,612	34,238
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,676	13,676
資本剰余金	23,936	23,936
利益剰余金	8,851	8,461
自己株式	△3,687	△3,686
株主資本合計	42,776	42,386
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	496	67
為替換算調整勘定	—	△8
評価・換算差額等合計	496	58
少数株主持分	936	1,037
純資産合計	44,209	43,483
負債純資産合計	72,821	77,721

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年9月30日)
売上高	83,471
売上原価	26,145
売上総利益	57,326
その他の営業収入	1,327
営業総利益	58,653
販売費及び一般管理費	56,959
営業利益	1,693
営業外収益	
受取利息	18
受取配当金	97
持分法による投資利益	70
協賛金収入	71
その他	200
営業外収益合計	458
営業外費用	
支払利息	187
その他	118
営業外費用合計	305
経常利益	1,846
特別利益	
店舗閉鎖損失引当金戻入額	879
受取補償金	288
特別利益合計	1,167
特別損失	
投資有価証券評価損	459
固定資産除売却損	137
減損損失	216
店舗閉鎖損失引当金繰入額	99
貸倒引当金繰入額	64
特別損失合計	977
税金等調整前四半期純利益	2,037
法人税等	1,252
少数株主利益	11
四半期純利益	773



## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純利益	2,037
減価償却費	2,530
減損損失	216
のれん償却額	196
引当金の増減額 (△は減少)	△264
受取利息及び受取配当金	△115
支払利息	187
固定資産除売却損益 (△は益)	135
持分法による投資損益 (△は益)	△70
投資有価証券評価損益 (△は益)	459
売上債権の増減額 (△は増加)	849
たな卸資産の増減額 (△は増加)	173
仕入債務の増減額 (△は減少)	△464
その他	△694
小計	5,177
利息及び配当金の受取額	144
利息の支払額	△186
法人税等の還付額	253
法人税等の支払額	△1,380
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>4,009</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△1,477
有形固定資産の売却による収入	200
投資有価証券の取得による支出	△24
子会社株式の取得による支出	△89
差入保証金の増減額 (△は増加)	1,825
店舗閉鎖等による支出	△515
その他	25
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△55</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△960
長期借入れによる収入	2,100
長期借入金の返済による支出	△2,590
配当金の支払額	△377
その他	△22
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△1,850</b>
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,103
現金及び現金同等物の期首残高	5,763
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△9
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>7,857</b>

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

a. 事業の種類別セグメント情報

当第3四半期連結累計期間(平成21年1月1日から平成21年9月30日まで)

(単位:百万円)

	外食事業	食品事業	機内食事業	ホテル事業	計	消去 又は全社	連結
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	69,113	2,345	4,260	9,079	84,798	—	84,798
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	235	2,995	0	92	3,324	(3,324)	—
計	69,349	5,340	4,260	9,172	88,122	(3,324)	84,798
営業利益	1,422	214	499	297	2,433	(739)	1,693

(注) 1 事業区分は、業態及び製品の種類、性質により区分しております。

2 各事業区分の主要な内容は、次のとおりであります。

外食事業……………レストラン店舗の運営、パン・洋菓子・ケーキの販売

食品事業……………業務用食品・市販用デリカ製品等の製造・販売

機内食事業……………機内食の調製・搭載

ホテル事業……………ビジネスホテルの運営

b. 所在地別セグメント情報

当第3四半期連結累計期間(平成21年1月1日から平成21年9月30日まで)

日本以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な支店がないため、該当事項はありません。

c. 海外売上高

当第3四半期連結累計期間(平成21年1月1日から平成21年9月30日まで)

海外売上高は、連結売上高の10%未満でありますので、記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

## 「参考資料」

## 前年同四半期に係る財務諸表等

## (1) (要約) 四半期連結損益計算書

前第3四半期連結累計期間(平成20年1月1日～9月30日)

科目	前年同四半期 (平成20年12月期第3四半期)
	金額(百万円)
I 売上高	89,001
II 売上原価	28,142
売上総利益	60,859
III その他の営業収入	1,221
営業総利益	62,080
IV 販売費及び一般管理費	60,781
営業利益	1,299
V 営業外収益	425
1 受取利息及び受取配当金	125
2 持分法による投資利益	5
3 その他	295
VI 営業外費用	285
1 支払利息	180
2 その他	105
経常利益	1,439
VII 特別利益	179
1 固定資産売却益	33
2 賃貸借契約等受取解約金	101
3 工場解体費用引当金戻入額	44
VIII 特別損失	723
1 投資有価証券評価損	301
2 固定資産売却損	241
3 減損損失	114
4 店舗撤退損失引当金繰入額	65
税金等調整前四半期純利益	896
法人税、住民税及び事業税	1,201
法人税等調整額	△73
少数株主損失(△)	△31
四半期純損失(△)	△200

## (2) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

前第3四半期連結累計期間(平成20年1月1日～9月30日)

区分	前年同四半期 (平成20年12月期第3四半期)
	金額(百万円)
<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純利益	896
減価償却費	2,800
減損損失	114
のれん償却額	407
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1
賞与引当金の増減額(△は減少)	326
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△397
工場解体費用引当金の増減額(△は減少)	△99
店舗撤退損失引当金繰入額	65
受取利息及び受取配当金	△125
支払利息	180
持分法による投資利益	△5
固定資産売却益	△33
固定資産売却損	241
投資有価証券評価損	301
売上債権の増減額(△は増加)	651
たな卸資産の増減額(△は増加)	163
仕入債務の増減額(△は減少)	△353
未払金の増減額(△は減少)	△589
その他	290
小計	4,838
利息及び配当金の受取額	174
利息の支払額	△186
法人税等の還付額	304
法人税等の支払額	△1,911
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,219
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有価証券の償還による収入	300
有形固定資産の取得による支出	△2,852
有形固定資産の売却による収入	28
投資有価証券の取得による支出	△0
投資有価証券の売却による収入	4
子会社株式の追加取得による支出	△806
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△740
差入保証金の純増減額(△は増加)	174
店舗撤退等による支出	△52
その他	△74
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,021
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,740
長期借入れによる収入	1,000
長期借入金の返済による支出	△2,393
自己株式の取得による支出	△1,002
配当金の支払額	△773
少数株主への配当金の支払額	△106
その他	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,535
<b>IV 現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	7
<b>V 現金及び現金同等物の増減額(△は減少)</b>	△2,329
<b>VI 現金及び現金同等物の期首残高</b>	9,425
<b>VII 現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	7,095

## (3) セグメント情報

事業の種類別セグメント

前第3四半期連結累計期間(平成20年1月1日から平成20年9月30日まで)

(単位:百万円)

	外食事業	食品事業	機内食事業	ホテル事業	計	消去 又は全社	連結
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	74,626	2,514	4,931	8,149	90,222	—	90,222
(2) セグメント間の 内部売上高 又は振替高	320	3,215	0	94	3,630	(3,630)	—
計	74,947	5,730	4,931	8,244	93,853	(3,630)	90,222
営業費用	74,387	5,569	4,139	7,713	91,810	(2,886)	88,923
営業利益	559	161	791	530	2,043	(743)	1,299